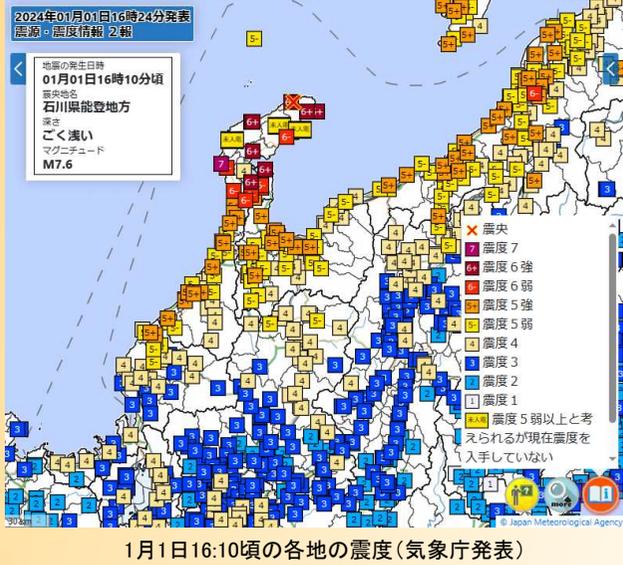




令和6年1月1日16時10分頃、石川県能登半島を震源とするマグニチュード7.6（最大震度7）の地震が発生し、能登地方をはじめ北陸の広い範囲で住宅・ライフライン・公共インフラに甚大な被害が生じるとともに、多くの土砂災害が発生しました。

国土交通省では、能登半島支援のため国土交通省緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）として石川県に127班413名（1月10日時点）の職員を派遣しています。このうち立山砂防事務所からは、第1陣として1月3日（水）～1月9日（火）までの7日間、4名の職員が土砂災害発生箇所早期確認支援「砂防調査班」として能登町で被災状況調査を行いました。

TEC-FORCEは、大規模な自然災害時に、被災された自治体の支援のために、被害状況の迅速な把握、被害の発生及び拡大の防止、被災地の早期復旧などを行います。国土交通省ではTEC-FORCEによる能登半島支援を現在も継続して実施しています。



現地の調査状況



全体会議(1月3日石川県庁)



ドローンによる崩壊法面調査(鴨川地区、大箱地区)



調査箇所(鳳珠郡能登町)



倒壊した家屋(柳田地区)



砂防堰堤調査(日詰脇川)



砂防堰堤調査(上之屋川)



道路の状況(北陸地方整備局提供)



砂防堰堤調査(五十里地区)



突出したマンホール(五十里地区)



雪の中での調査(大箱地区)



事務所へ帰還(1月9日 立山砂防事務所)